

主な内容

物価高対応子育て応援手当 ほか	3面
ふるさと最前線	9面
会計年度任用職員の募集	10面
第51回衆議院議員総選挙	11面
ご当地めいすいくん	
デザインコンテスト ほか	12面

発行／浦安市
所在／〒279-8501 千葉県浦安市
猫実一丁目1番1号
編集／企画部広聴広報課
☎047-351-1111(代表)
<https://www.city.urayasu.lg.jp>

各記事に掲載しているIDを市ホームページの「広報ページID検索」に入力すると、該当のページができます。これにより、記事を探す手間を省けます



「季節の分かれ目」を意味する節分。「豆まきなどの風習は、春の始まりを告げる立春を前に、邪気を払って無事を祈るという意味があります。まだまだ寒い日が続きますが、伝統的な行事を通して新しい季節の健康を願ってみませんか。



火災時の水利の確保



冬場は空気が乾燥し、火災の発生が懸念される季節です。

浦安市は、これまで幾度も大火を経験してい



境川わかしお歩道橋付近の消防水利

ることから、「全世帯への消火器の無償貸与」「火災予防運動」など、火災への対策を進めてきています。また、地震時に火災延焼や倒壊などにより避難が困難になる危険性が高い市街地「木造密集地域」を千葉県で唯一抱えており、マンション、ホテルなど高層建築物もある浦安市にとって消防力の強化は大きな課題となっています。

消防力強化のためには、施設や消防資器材の整備を行っていくとともに、消火活動を支える「水利」の確保が重要となります。

現在、市内には、1435カ所の消火栓、656カ所の防火水槽が設置されていますが、地震時や大火が発生した際、これらが機能しなくなることも考えられます。そうしたときには、河川などの水を利用することも想定し、プールや河川など42カ所を消防水利として指定しています。

境川、猫実川、見明川などの市内の河川には、消防水利として使用する場合に備え、消火活動を円滑に行うため容易に水辺まで下りることができるテラス護岸を、河川管理者である千葉県と協議しながら整備してきました。

テラス護岸の整備にあたっては、状況などを判断し、消防用のホースを通すためのパイプ(穴)を護岸に埋め込んでいる場所もあります。このパイプにホースを通すことによって、護岸を越えることなく水を火災現場に届けることができます。

テラス護岸は、市民が水と触れ合える空間であるとともに、いざというときのためにまちを守るために施設です。テラス護岸に下りるとき、消防水利としての機能もぜひ確認してみてください。

浦安市長 内田 悅嗣



● ● ● 節分の由来 ● ● ●

2月3日㈫は節分の日です。節分とは、もともと、季節の分かれ目のことといい、暦では立春・立夏・立秋・立冬の前の日のことを指すものです。旧暦では、立春が一年の始まりとして大切にされていたことから、現在では、節分というと立春の前日のことを指す場合が多くなっています。

古くから、季節の変わり目には鬼がやってきて災いや疫病をもたらすと考えられていました。平安時代には年越しの宮中行事として鬼を追い払う儀式が行われていて、現在の節分の風習の由来になったと言われています。

豆をまくときの「鬼は外、福は内」というかけ声は室町時代の文献にも記されていて、江戸時代には歌舞伎役者がお寺で豆まきをする行事が行われていました。



江戸時代の歌舞伎役者、七代目市川団十郎の豆まき 出典：初代豊国錦絵帖

邪気を払つて健康に

節分では、邪気を払う風習で1年間の健康を願います。季節の変わり目は体調を崩しやすくなりますので、かぜなどをひかないよう、体調管理に気をつけましょう。

バランスのよい食事をとりましょう

必要な栄養素を補給することで、体の免疫機能をきちんと発揮させることができます。炭水化物・たんぱく質・ビタミンなどバランスのよい食事をとりましょう。また、かぜの予防には水分補給も大切です。

十分な睡眠をとりましょう

睡眠が不足すると疲れが取れず、体力が低下してしまいます。自分では気がつかなくても免疫力が低下して体調を崩しやすくなりますので、生活リズムを整えて十分な睡眠をとるようにしましょう。

手洗い・うがいをきちんとしましょう

ドアノブや電車のつり革など、さまざまなものに触れることにより、自分の手にもインフルエンザなどのウイルスが付着している可能性があります。また、ウイルスがのどを通って体内に入ることを防ぐため、こまめな手洗い・うがいを心がけましょう。

室内の換気・湿度の調節を行いましょう

空気中のウイルスは換気することで室内から排出することができます。また、ウイルスには湿度が高い環境では生存にくいものもあり、対策として部屋の加湿が有効です。

● ● ● 節分の風習 ● ● ●

節分の日の風習は、多くが民間で伝承してきたもので、地域や時代によってさまざまな違いがあります。ここでは、現在、全国に広まっている代表的な風習を紹介します。

● ● ● 豆まき ● ● ●

節分と言えば豆まきをするという方も多いのではないでしょうか。各家庭で行われているため、そのやり方もさまざまですが、いった大豆を部屋の窓や玄関を開けてまくというものが典型的で、大豆を自分の年齢の数だけ食べる風習もあります。

豆まきは節分の行事として広く行われており、市内でもさまざまな場所でイベントが開催されます。

節分体験

ID 1017064

時 2月1日(日)午後2時～3時30分

所 郡土博物館

内 容 豆まき（先着順で豆の配布あり。持参も可）

※申込不要、直接会場へ

問 郡土博物館 ☎305・4300

うらっこで豆まき

ID 1047411

時 2月1日(日)

▶午前10時30分～11時

▶午後3時～3時30分

所 こどもの広場

対象 市内在住の18歳以下の子どもとその保護者

※未就学児は保護者の付き添いが必要

内 容 新聞紙で作った豆で鬼退治

※申込不要、直接会場へ

問 こどもの広場 ☎350・1010



各神社などの催し

市内では、清瀧神社や稻荷神社などで、毎年、節分祭として豆まきを行っています。

● ● ● 枝 鰯 ● ● ●

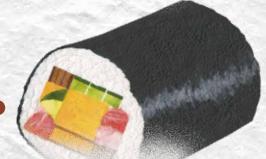
鰯の頭を焼いて、枝の枝に付けた物を家の軒下や戸口などに飾る風習です。臭いが強い鰯と、葉にとげがある枝は鬼が嫌うとされ、魔除けとして行われてきました。地方によっては「ヤイカガシ（焼き嗅がし→焼い嗅がし）」といい、石垣や畠に挿して、農作物の害となる虫を追い払いました。同じように臭いが強いニンニクやネギをぶらさげておく地方もあります。

● ● ● 恵 方 卷 ● ● ●

切り分けられない長いままの太巻き寿司を、恵方（その年の福德を司る神様のいる方角）を向いて食べる風習で、大阪で発祥したものと言われています。平成になり、スーパー・コンビニエンスストアが全国で販売し多くの人に認知されるようになりました。

七福神にちなみ、厚焼き玉子やきゅうり、あなご、かんぴょうなど決まった7種類の具材を入れると縁起が良いと言われることもありますが、近年ではさまざまな種類が販売されています。

なお、今年の恵方は「南南東やや南」だそうです。



出典

- 萌文書林編集部「子どもに伝えたい年中行事・記念日」(株)萌文書林 1998年
- 谷田貝公昭、坂本廣子「イラストでわかる日本の伝統行事・行事食」合同出版(株) 2017年
- 沢井博行「現代人における年中行事と見出される意味—恵方巻を事例として」『比較民俗研究』第23号 筑波大学比較民俗研究会 2009年
- 国立国会図書館「日本の万華鏡 第21回 大豆一粒よりマメ知識 第1章 節分と豆まき」<https://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/21/1.html>